

製品名: 切断型 KLK8 (V33) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09004**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	24kDa

抗原情報

遺伝子名	KLK8
別名	KLK8; NRPN; PRSS19; TADG14; Kallikrein-8; hK8; Neuropsin; NP; Ovasin; Serine protease 19; Serine protease TADG-14; Tumor-associated differentially expressed gene 14 protein
遺伝子 ID	11202.0
SwissProt ID	O60259
免疫原	抗血清はヒトニューロプシン由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 14-63

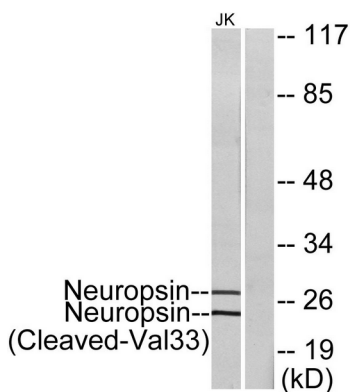
背景

カリクレインは、多様な生理機能を有するセリンプロテアーゼのサブグループです。多くのカリクレインが発がんに関与しているこ

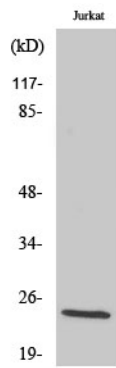
と、そしてその一部は新たながんやその他の疾患のバイオマーカーとなる可能性があることを示す証拠が増えています。この遺伝子は、19番染色体上の遺伝子クラスターにタンデムに配列する15のカリクレインサブファミリーメンバーの1つです。コードされているタンパク質は、皮膚におけるタンパク質分解カスケードに関与している可能性があり、卵巣がんのバイオマーカーとなる可能性があります。この遺伝子の選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生成されます。[RefSeq提供、2013年7月]触媒活性: P1位の塩基性アミノ酸ArgまたはLysに続くアミド基質を切断し、LysよりもArgを優先します。、酵素調節: アンチパイン、アプロチニン、ロイペプチン、ベンザミジン、大豆トリプシンインヒビターなど、さまざまなセリンプロテアーゼインヒビターによって阻害されます。、機能: カゼイン、フィブリノーゲン、キニノーゲン、フィブロネクチン、IV型コラーゲンなど、多くのタンパク質を分解できるセリンプロテアーゼ。また、神経活動の増加に応じてL1CAMを切断します。培養海馬ニューロンの神経突起伸長と束形成を誘導します。シャッフアー側副経路における孤立性および小型シナプス小細胞の形成と成熟に関与し、海馬におけるシャッフアー側副経路の長期増強を制御し、記憶獲得とシナプス可塑性に必須です。皮膚の落屑とケラチノサイトの増殖に関与しています。脊髄損傷後の病態の二次段階で役割を果たしています。、その他: 進行期卵巣癌患者の血清、腹水、腫瘍細胞質に高レベルで発現しており、卵巣癌のマーカーとして機能する可能性があります。、類似性: ペプチダーゼS1ファミリーに属します。カリクレインサブファミリー。、類似性: 1つのペプチダーゼS1ドメインを含みます。、組織特異性: アイソフォーム1は主に膵臓で発現し、アイソフォーム2は成人の脳と海馬で発現します。どちらの形態も胎児の脳と胎盤に存在します。唾液腺、子宮、胸腺、乳房、精巣、腎臓で検出されますが、脾臓、肝臓、肺、正常卵巣組織では検出されません。アルツハイマー病患者の海馬では対照群と比較して11.5倍の増加が見られ、一部の卵巣癌では過剰発現が認められます。正常皮膚では低レベルの発現が見られますが、尋常性乾癬、脂漏性角化症、扁平苔癬、扁平上皮癌の皮膚サンプルでは高レベルの発現が見られます。

研究分野

画像データ



エトポシド 25 μ M で 24 時間処理した Jurkat 細胞ライセートの、ニューロプシン (Cleaved-Val33) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



Cleaved-KLK8 (V33) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析